

東ティモール民主共和国



(一般指標)

国名 (英名)	東ティモール民主共和国 (TLS : The Democratic Republic of Timor-Leste)	
国土面積	万 ha	149 (四国本島の81%)
人口	万人	118.7 人口密度 79.6人/km ² (2012年)
首都名(英名)	ディリ (Dili)	
首都人口	万人	5.1 (2004年)
主要言語	テトゥン語・ポルトガル語(以上公用語) インドネシア語・英語(以上実用語), その他30言語以上	
宗教	キリスト教99.1%(内90%カトリック)、伝統信仰0.8%、イスラム教0.3%、仏教0.1%	
国連加盟年月	2002年9月(2002年5月独立)	
通貨単位	公式通貨は米ドル	
国民総所得: GNI	億米 ^{ドル}	25 (2010年)
一人当たりGNI	米 ^{ドル}	2,220 (2010年)
主要産業	農業(米、とうもろこし、コーヒー豆)、	
日本から輸出	億円	7.8 (2011年)(車輛、一般機械、電気機器)
日本の輸入	億円	11.4 (2011年)(液化石油ガス、コーヒー豆)
土地利用	万ha	耕地 23 (15.1%) (2009年現在)
		森林 75 (50.7%) (2009年現在)
		牧場・牧草地 15 (10.1%) (2009年現在)
度量衡	メートル法	
祝祭日	1月1日元日、5月1日メーデー、20日独立記念日、8月15日聖母被昇天祭、8月30日住民投票記念日、9月20日解放記念日、11月1日諸聖人の日、11月12日国家青年の日、12月8日無原罪の御宿り、12月25日クリスマス 移動祝日: 聖金曜日、イースター、断食明け祭、犠牲祭	
気候	ティモール島は南緯9°前後に位置しており、全土が熱帯雨林気候Am。首都ディリのある北部海岸沿いでは雨季は11~4月、6~9月が乾季である。東部と南部地域は11~5月と6~8月の2回の雨季がある。最低気温は摂氏18~23度、最高気温は28~33度である。	

(森林の指標)

(森林面積)

森林面積 (2010)	千 ha	742
森林率	%	50.0
森林変動率 (2005-2010)	%	-1.4

(森林蓄積)

森林蓄積(2010)	百万 m ³	-
ha 当たり森林蓄積	m ³	-

(人工林面積)

人工林面積 (2010)	千 ha	43
森林面積に対する割合	%	6.0

(森林所有者)

公的機関	%	33.0
民間	%	67.0

(炭素蓄積)

炭素蓄積 (2010)	百万トン	-
年平均炭素蓄積変化 (2005-2010)	千トン/年	-

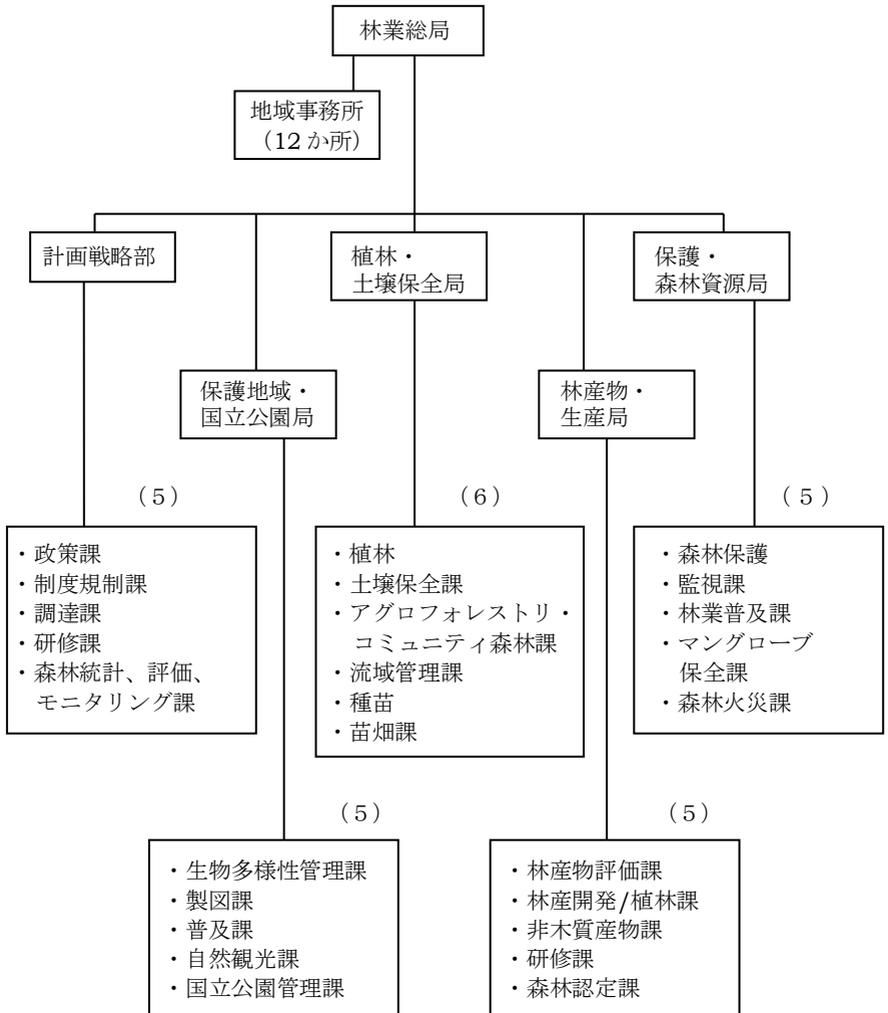
(森林・林業行政組織)

森林資源管理に責任を有する政府機関は、林業総局（National Directorate of Forestry : NDF）である。同局の現時点の正規職員は 150 人で、そのうち 59%の職員は、地方局に所属する。中央組織の職員は、計画及び行政に、また、地方局職員は、現地活動と林業普及に責任をもつ。

林業総局の組織は植林・土壌保全局、保護・森林資源局、林産物生産局、保護地域・国立公園局、計画戦略部があり、植林・土壌保全局が流域管理に関する権限を持っている。

農業水産省の他の総局では、農業コミュニティ開発支援総局（National Directorate of Support to Agricultural Community Development, NDSACD）が普及を通じた農山村開発推進に関わっている。林業総局（NDF）の組織図は以下のとおりである。

林業総局（NDF）組織図



(森林・林業政策)

独立後の現在もなお、森林資源の利用に関する法的に有効な規則は、「On the Prohibition Of Logging Operations And The Export Of Wood From East Timor (2000/17)」と「On Protected Areas (2000/19)」の2つのみである。2000/17の規定は森林資源のインベントリーと伐採・移動・輸出、火入れ又はその他の方法による森林の破壊を禁止するものであり林業の確立までの暫定的な措置とされていた。なお、森林・環境に関する法・制度・組織の整備は、2010年現在も進んでいない。

〈森林管理及び土地所有制度〉

森林は、生産林、流域保全および保護林、村落共有林および私有林に区分されている。

森林は、2002年の独立までは、インドネシアの森林法で管理され、その林業規則の中には東ティモールに適用可能なものもあるが、現在の法体系のもとでは実施されていない。

東ティモールの土地の公的な権利書は 47,000 あるが、その大部分はインドネシア統治時代のものである。大部分の土地は登記されておらず、慣習法により管理されている。慣習的な権威者および村落共同体は、一般的に、土地の境界及びその移転に関する記憶を有している。

土地保有制度は、先祖の起源と密接に結びついている。インドネシア時代の大規模な再移住定着計画にもかかわらず、伝統的な社会組織及び慣習的保有はきわめて根強く生き残っている。伝統的には古くから人々は小さな家族グループで生活してきた。なお、小さな家族グループは、ポルトガル人がやってきたときにはポボアオエス (povoações)、のちにはアルデアス (aldeias)、現在は、サブヴィレジ (sub-village) と呼ばれ、村は、スコス (sucos)、村長はチェフェデスコ (chefe de suco) と呼ばれている。

(森林の現況)

FRA2010によると、東ティモールの森林面積は、国土面積の 50%に相当する 74 万 2 千ヘクタールで、1990年から 2010年までの年平均減少面積は 11,000ha、減少率は 1.44%となっている。

東ティモールは、東南アジアとオーストラリア・パプアニューギニアの動植物相を分ける西のウエーバー線と東のウオレス線に挟まれたウオーレシアと呼ばれる移行帯に属する。ウオーレシアにはティモール島、スラウェシ島、ルソン島が含まれる。

ウオーレシアでは東南アジア的なフタバガキ科の樹木は極端に少なく重要樹種として認識されていない。また、オーストラリア的なユーカリ類も少なく、標高 1,000m 以上の山地に *Eucalyptus urophylla* (ユーカリ・ユーロフィラ)、低地には *E.alba* (ユーカリ・アルバ)、湿潤環境に *E.deglupta*(カメレレ)が分布している。優占種は東南アジアに共通に見られるマメ科のアカシア類、ネムノキ類、マメ科以外では *Azadirachta indica* (インドセンダン)、*Tamarindus indica* (タマリンド) である。この他に特徴的な樹木としては、オーストラリア・南太平洋の *Santalum album*(サンダルウッド)、*Casuarina junghuhniana* (モクマオウ) が見られる。

東ティモールの森林は、年間降雨量に強く影響されているが、東ティモール政府の「森林流域サブセクターの政策と戦略」によれば、次のとおりである。

- ア. 北部の年間降雨量 500-1,000mm 地帯では、ユーカリ・アルバ(現地名: Ai Budur 学名: *Eucalyptus alba*)とタマリンド(現地名: Sukaer 学名: *Tamarindus Indica*) が生育している。
- イ. 東部と南部の年間降雨量 1,500-2,000mm 地帯ではカナリウム(現地名: Ai Kiar 学名: *Canarium reidetalia*)、フタバガキ科のインドシタン(現地名: Ai Naa 学名: *Pterocarpusindicus*)と現地名アイサリ(現地名: Ai Saria 学名: *To'na sureni*) が生育している。
- ウ. 高山地帯の年間降雨量 2,500-3,000mm の多雨地帯ではユーカリ・ユーロフィラ(現地名: Ai Ru 学名: *Eucalyptus Europhylla*)と数種のシダ類が生育している。
- エ. 内陸林の他に海岸部の小さな湾、河口部、後背地の酸性の強いブラキッシュ湖にマングローブ林が生育している。マングローブのほとんどはヒルギ科(*Rhizophora* 類)に属する。

(人工造林)

ポルトガル領時代及びインドネシア時代に商業材生産を目的として、造林が行なわれていた。ポルトガルの統治地時代には、3,348ha の *Tectona grandis* (チーク) が

造林され、現在およそ 40 年生となっている。また、インドネシア統治時代には、チークのほか、*Gmelina arborea*, *Aleurites mullocana* (ククイノキ), *Cassia siamea* (タガヤサン), *Paraserianthes (Albizia) falcataria* (モルッカネム), *Pterocarpus indicus*, *Swietenia macrophylla* (マホガニー) 等が約 4,660ha 植栽されている。

FRA2010 によれば、2010 年現在の人工林面積は森林の 6%にあたる 43,000ha である。

(林産業)

東ティモール国の主な非木材林産物 (NTFP) は、タケ、ラタン、ヤシ、タマリンド及び蜂蜜である。タケは一般に降水量の多い地域に生育し、在来種である Au Metan (黒タケ) を含む 8 種類のタケが生育している。ラタンはラオテン県、ビケケ県、マヌファヒ県、コバリマ県及びマナツト県の 5 地域に多い。“Rota Bo’o (t 大きいラタン)”として知られる *Calamus merrilli* を含めて、4 種類のラタンが分布しており、生育も良い。また、ヤシは、海岸に沿った乾燥地域の低地に多く、ニッパヤシ (*Acadero*、*Tua na’a*) 及び *Tale* の 3 種類が分布している。また、蜂蜜は、コーヒー地域や岩山地域及びスリワンギ (*Ai Netas*, *Ai-Sarya*)、パンヤ (*Ai Lele Fuik*) 及びベンジャミン・ゴムノキ (*Beringen*) のような樹種の多い流域で生産されている。

広く利用されている非木材林産物は、ヤシと蜂蜜である。ヤシは、一般に建築や農場のフェンス、地酒の原料及び手工芸の材料として利用される。蜂蜜は、食料や咳止めの薬として利用される。このほか、タケは家具、魚のわな、家屋の壁、伝統的な行事の資材として利用され、ラタンは主として家具の材料として使用される。

国民の主要燃料は薪炭であり、家屋など建築物・建築用材には多くの木材が利用されている。薪炭材に関しては世銀の調査 (東ティモール DHS2003 年) によれば、世帯の炊事用燃料種別利用割合は、電気 0.3%、ガス 0%、ケロシン (灯油) 1.3%、木炭 0.3%、薪 98%となっている。

原木生産量の推移と木材貿易量は以下の表のとおりである。

原木生産量の推移

単位：千 m³

年次	薪炭用	用 材				原木生産量
		製材用、 単板用	パルプ用	その他	合計	合計
2006	142	—	—	—	—	142
2010	120	—	—	—	—	120

注：その他は杭、マッチ、ポスト、柵 など

木材貿易量（2010）

単位：数量万 m³，金額万ドル

製 品 名	輸 入		輸 出	
	数 量	金 額	数 量	金 額
丸 太	—	—	0.1	—
製 材	—	—	—	—
合 板	—	—	—	—

出典：

1. Forest law enforcement and governance in Timor-Leste
FAO RAP PUBLICATION 2010/05 ; ISBN 978
2. 東ティモールにおける森林法の施行と管理：アジア・太平洋地区における進展
(FAO アジア太平洋林業委員会)
3. JICA, 2005, 東ティモール国 ラクロ川及びコモロ川流域住民主導型流域管理
計画調査事前(S/W 協議) 調査報告書
4. JICA, 2010, 東ティモール国 持続可能な天然資源管理能力向上プロジェクト
詳細計画策定調査報告書
5. World Bank, 2009, Timor-Leste: Country Environmental Analysis
6. NATIONAL REPORT TO THE UNITED NATIONS CONFERENCE ON
SUSTAINABLE DEVELOPMENT (UNCSD)
・On the run up to Rio+20 y 2012 VI. Lessons Learned from Stocktaking
Exercise
・東ティモール経済開発省 2012 (MofEaD)
7. Claudia D'Andrea, 2003, The Customary Use of Natural Resources in Timor
Leste
A discussion paper prepared for a regional workshop on “Land Policy
Administration for pro-Poor Rural Growth,”
8. T. H. Chiew, J. Hewitt, C. H. Keong, 2012, TIMOR LESTE: Scoping
Baseline Information for Forest Law Enforcement, Governance and Trade
Baseline Study 11

